



●令和元年度3月卒業

能勢高校66期生（中高一貫・総合学科14期生）進路状況

卒業生数 男 28名 女 13名 計 41名

	66期生 (人数・割合)		65期生	64期生	63期生
四年制大学	6	14.6%	12.3%	20%	26.5%
短期大学	4	9.8%	7%	15.6%	6.2%
専門・各種学校	18	43.9%	36.9%	31.1%	20.4%
(このうち看護学校)	(3)	(7.3%)	(5.3%)	(2.2%)	(2.1%)
就職	9	21.9%	33.3%	26.6%	38.5%
その他	4	9.8%	10.5%	6.7%	8.4%
卒業生数	41人	100%	57人	45人	49人

合格大学

高知県立大学、関西学院大学2名、龍谷大学、大阪学院大学、大阪成蹊大学
* 立命館アジア太平洋大学 * …浪人生

合格短期大学

関西外国語大学短期大学部2名、大阪成蹊短期大学、華頂短期大学

専門学校進学先

宝塚市立看護専門学校、公立南丹看護専門学校、大阪医療看護専門学校、
大阪医療福祉専門学校、京都医健専門学校、大阪保健福祉専門学校、
関西保育福祉専門学校、京都建築大学校2名、兵庫県立農業大学校、
大阪自動車整備専門学校、大阪 ECO 動植物海洋専門学校2名、
エコール辻大阪、ESP エンタテインメント、駿台観光&外語ビジネス専門学校

おもな就職先

猪名川国際カントリー、能勢電鉄、(株)阪急オアシス、
陸上自衛隊、ヤマジン設備、(株)万代など



○●能勢高校閉校式が行われました●○

大阪府立能勢高等学校は、昭和29年（1954年）4月1日に能勢町歌垣にて創立し、66年間、能勢の地で独立した公立高校として多くの卒業生を見送ってきました。そして令和2年（2020年）3月3日、能勢高等学校66期生の卒業式の日にあわせて、閉校式が行われました。

今後は能勢町住民の方々、地域の皆さんの後押しを得て、引き続き大阪府立豊中高等学校能勢分校として、新たな取り組み進めてまいります。

○●豊中高校能勢分校3期生が入学しました●○

2月下旬からの新型コロナウイルスの影響を受け、令和2年度能勢分校3期生の入学式は残念ながら行うことができませんでした。休校明けの5月に新入生が初登校し、ようやく担任の先生や新しいクラスメイトと顔を合わせることができました。

異例づくめの新年度スタートになりましたが、学校にも生徒の笑い声が戻り、休校期間を取り戻すべく、学校生活をエンジョイしています。

今年も能勢分校に留学生が来ます！



7月20日～9月4日まで、ドイツのハンブルクから白井・ヤン・颯（しらい・やん・はやと）くんが、本校に短期留学生として来ます。3年生のクラスと一緒に授業を受けます。ドイツ語・英語・日本語を話し、スポーツでは水泳とテニスが得意だそうです。音楽を聴くことも好きでピアノを弾くそうです。

コロナ禍のため来日予定が延びましたが、以前から日本への留学を強く希望してくれていたため、実現でき本当に良かったです。

[昨年7月の様子]

昨年7月にも、短期留学を希望する相談のため能勢分校を訪れており、2年GS受講生4名とともに、1日講座を受けました。また、ドイツ視察前には白井くんからドイツ文化について教わることもできました。留学中にもお互いに学べることも多くありそうです。



ホームステイ先は、能勢町平通です。校内や能勢で見かけることがあれば気軽に声を掛けてください！



また、11月末～来年7月末には、AFSからの長期留学生チンさんが、マレーシアのジョホール州から本校へ留学予定です。チンさんも日本への留学を強く希望しているので、無事に来日して能勢分校で一緒に学校生活を送れることを心から願っています。

文部科学省「地域と協働による高校教育改革推進事業」は、高等学校においてグローバルリーダーを育成するため、3年間の指定期間でカリキュラム開発をするもので、SGHの後継事業として平成31年度に新たに立ちあげられた事業です。

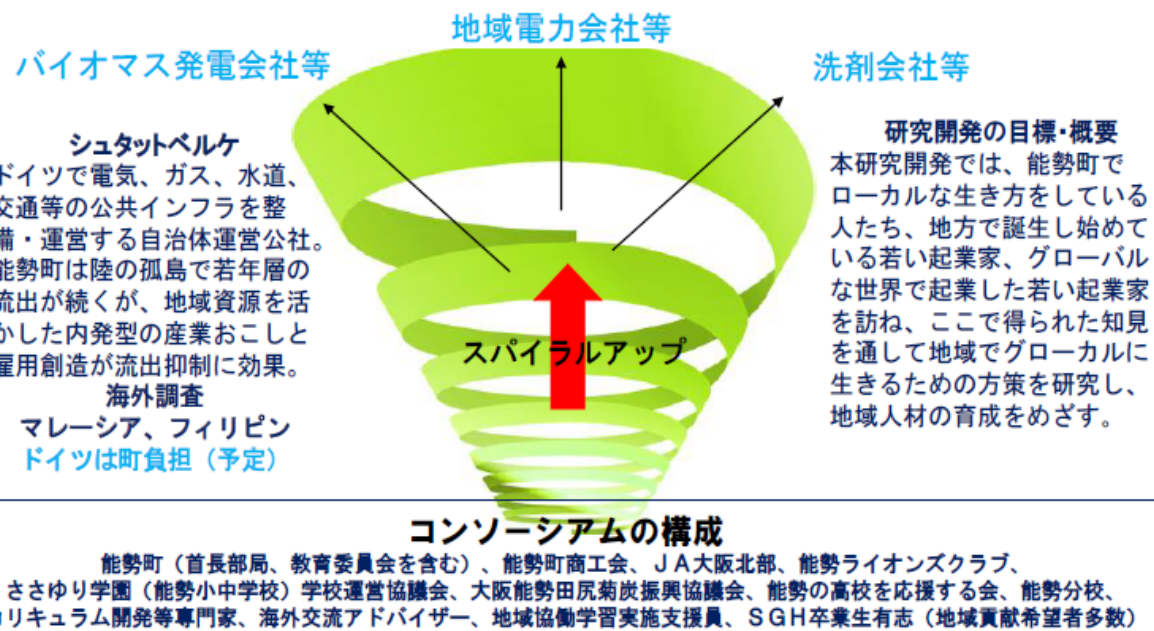
本校は、能勢町の活性化と能勢町でのグローバル人材育成につなげていくことを目的に、これまでのSGHの実績を元に申請書を作成し応募しました。今年度の地域協働推進校の指定は全国で4校、事業特例校4校、アソシエイト校7校で、本校は「事業特例校」（3年間指定）としての指定となりました。指定校とともに協議会や発表会に参加し、取組みを進めていきます。

研究開発の概要

能勢版シュタットベルケ（自治体運営公社）は、公社運営にとどまらず、住民参加を得た若い起業家を生むコンソーシアム（共同事業体）です。本校はこのコンソーシアムに参加し、地域貢献の役割を担っていきます。能勢町でローカルな生き方をしている人たち、地方で誕生し始めている若手起業家、グローバルな世界で起業している若手起業家を訪ね、地域でグローバルに生きるための方策を研究することにより、地域人材の育成をめざします。

能勢町版シュタットベルケとの協働実践の研究

《人口減少全国ワースト24位の町と分校の雇用創造への挑戦》



〇〇ZOOM 講演交流会〇〇



5月16日（土） 講師：佐藤真史さん「国境なき医師団」看護師

昨年度のSGH、GS受講生3年生2名と卒業生1名が、オンライン講演交流会に参加しました。「国境なき医師団」の派遣先、アフリカ マラウィの病院「クイーンズホスピタル」での緊急医療支援活動についての講演後、全国の参加者とQ&Aで交流しました。大変貴重な学習時間となりました。

5月28日（木） 能勢分校生と福島の高校生とのZOOM交流会 ～関西テレビで放映されました～

ドイツ・再生可能エネルギーについて、ドイツを訪問した福島県の高校生と本校3年生4人がZOOM交流会を行いました。川又さんのミニ講義「コロナ危機の今、考えるエネルギーの未来」の後、分校生がプレゼンテーションをし、ディスカッションをしました。その取組みの様子が、5月31日（日）に関西テレビ「FNN Live News it！」で放映されました。

昨年度の海外交流・SGH活動

〇〇マレーシア修学旅行〇〇

1月19日（日）～23日（木）、能勢分校1期生の2年生が、マレーシアへ修学旅行に行きました。

クアラルンプールにある総合大学、UPM（国立プトラマレーシア大学）を訪れ工学部の学生と一緒に授業体験、ヒンズー教の聖地バツァー洞窟見学、イスラム教寺院のピンクモスクを訪問、最終日には街全体が世界遺産であるマラッカ市内の古都の街並みを散策しました。3日目の姉妹校アスタ高校訪問では、ダンスや吹奏楽の熱烈な歓迎セレモニーに始まり、学校紹介の相互プレゼンテーション、空手やソーラン節、インド式の結婚式パフォーマンスやマレーシア民族舞踊など、素晴らしい文化交流の時間となりました。5日間という短い滞在でしたが、多民族国家であるマレーシアの文化に存分に触れることができ、充実した修学旅行となりました。



〇〇令和元年度SGH最終発表会〇〇

2月15日（土）、能勢町浄るりシアター小ホールにて「令和元年度 能勢高校 SGH 研究発表会」を開催しました。今年度は「経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～」をテーマに、SGH後継授業であるGSでは「能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～」をテーマに発表を行いました。

平成27年度に文部科学省によりSGH（スーパーグローバルハイスクール）として5年間の指定を受けた最後の年の集大成となりました。

これからも能勢分校は地域の活性化を目標に、能勢町と連携しながら課題研究に全力で取り組んでいきます！

